

職員の皆さんへ

6月を迎え、早くも夏の陽気に包まれています。梅雨時でもあり災害などにも警戒しなければならない時期になりました。被害などを最小限に食い止めることができるよう関係各課相互に連携してまいりましょう。

先月18日に、平戸商工会議所女性会の主催による研修会が開催され、講師として日本総研主席研究員の藻谷浩介氏が招かれました。藻谷氏は『デフレの正体』や『里山資本主義』などの著作があり、かつて本市の市議会一般質問の答弁でも話題になった方です。

当日はこの研修会に来られなかった職員もいると思いますので、その概略を記しますが、その主な内容は「地方に埋もれているチャンスを活かそう」ということであり、その埋もれている原因は私たちの「錯覚」や「思い込み」であるというものでした。例えば有効求人倍率は、都会の自治体よりも地方のほうが優位であることや、高齢化の実態は都会のほうがより深刻であるということなど、私たちが確かめもせずイメージだけで鵜呑みにしている先入観が幾つも覆されました。

そして極めつけは、「若者が戻らない地域の共通点」でした。以下に箇条書きとして挙げましょう。

- ① 「無い物探し」と「悪者探し」が日課
- ② 親が子どもたちに「この町はダメだ」という
- ③ 観光客に地酒、地魚、地野菜を出さない
- ④ 生鮮品を都会に生で安売りする
- ⑤ 役所職員や議員が勉強会に来ない
- ⑥ いくら頼まれても空き家を貸さない
- ⑦ 自分の子を都会に出しておきながら、都会から来た若者の悪口を言う
- ⑧ 「何もない」と「当たり前」が口ぐせ

この中のいくつかは既に私自身も指摘したこともあれば、毎月のこの訓示シリーズでも申し上げた内容でもありますが、藻谷氏の数値に裏付けられた理論として包括的にこうした8つの項目を列記されると頷かされるとともに目からウロコの状態となりました。

五番目の項目に「役所職員や議員が勉強に来ない」と記されていますが、かろうじて今回の研修会には、心ある職員や複数の議員の姿も見えてほっと胸をなでおろしていますが、もう少し参加が欲しかったとも思いました。

いずれにしましてもこうした研究者や実践者の講演を聴いて勉強することはとても価値があり重要なことです。あってはならない考えは「今の立場で得ら

れる知識はこれ以上必要としない」とか「現状の仕事をこなすだけで充分であり、それ以外の情報を集めたり分析したりする余裕もない」などと勉強や研究の姿勢を否定することで、これでは益々自分が駄目になってしまいます。

特に役所は組織体でもあり、グループで仕事をこなしていくチームワークが肝心です。その中のリーダーが情報収集や自己研鑽を怠っているのは、組織全体が硬直化もしくは緩慢化してしまい、時代のニーズに対応することはおろか、敏捷性や臨機応変能力すら失ってしまいかねません。

現在、平戸市総合計画の第二期計画を策定中であり、その中に「職員の意識改革」という項目があります。この項目はどこの自治体でも掲げられ、終わらなき目標のように位置づけられています。具体的な実践を伴わなければ単なる掛け声に終わってしまいます。

その一環として、さっそく今月の定例部長会において「一課一ボランティア」として組織ごとにボランティア活動の目標を掲げていくことによって、その達成感や市民の評価などを受けながら意識改革につなげることを提案しました。

さらにこの提案に加え、もう一つ皆さんお一人お一人に提案させていただきます。それは「一人一冊読書感想文」です。

平戸市には、他の自治体や将来世代にも誇れる立派な図書館が出来上がりました。蔵書の内容もすばらしく、まさに知識の集積が図られています。だからこそ、職員が率先してこの図書館を活用し、心に残る一冊を射止め、これを感想文にしてまとめるのはいかがでしょうか。

その感動は、職場の先輩や同僚にも共有していただくばかりか、場合によっては私への紹介図書として勧めていただくことも大歓迎です。自己啓発によって他者とのコミュニケーションを図り、またその感動を共有することが全体の意識改革への底上げになると確信します。

仕事や人生の中で壁にぶつかることは通常起こりうることです。その解決の糸口を独りで悩むことや愚痴を言って憂さ晴らしをするのではなく、図書館の著書などにヒントを求めることは意外と早道でもあり効果的です。自分では考えも及ばなかったことを既に書物として著している人が必ず存在しますし、一方で小説などの物語として表現している作家も多くいます。自分自身の壁を超えて成長するには、誰かの知識や経験が必要なのです。それは耳から聴くよりも、その文字を目で読んで頭で理解することが脳と胸に強く刻まれること間違いありません。どうぞ実践してください。

さて6月定例市議会は5日から開催される予定です。

補正予算の審議をはじめ市民生活にかかわりの深い施策など、その意義や必要性なども含めてしっかりとした説明責任を果たすべく準備に力を注いでいただきたいと思います。議員各位から求められる検証にしっかりと答えられるよ

う、日頃の努力の成果を示しながら頑張っていきましょう。

平成 29 年 6 月 1 日

平戸市長 黒 田 成 彦